

筑前國
多多良濱

りて、吹上のはまとはいふなり、此地むかしより月の名どころにして、文苑古詠かずくあり、されば年歳累りて、名所も廢して、蒼海三たび桑田となるのならひ、今は其俤さへも、衛士の臺を連て出る月も、家より出て家に入の風情とはかはりぬ、

〔太平記^{十六}〕多多良濱合戰事附高駿河守引例事

小貳ガ城、已ニ責落サレテ、一族若黨百六十五人、一所ニテ討レケレバ、菊池彌大勢ニ成テ、頓テ多

多良濱ヘゾ寄懸ケル、○中略去程ニ菊池五千餘騎ヲ卒シ、濱ノ西ヨリ相近付テ先矢合ノ流鏑ヲゾ

射タリケル、左馬頭○足利ノ陣ヨリバ、矢ノ一筋ヲモ射ズ、○中略百五十騎參然トシテ堅ヲ破レバ、

菊池ガ勢誠ニ百倍セリトイヘドモ、僅ノ小勢ニ懸立ラレテ、一陣ノ軍兵三千餘騎、多々良濱ノ遠

干潟ヲ、二十餘町マデゾ引退ケル、

豊前國
規矩高濱

〔書言字考節用集^二〕乾坤規矩高濱豊前企救郡今

〔萬葉集^{十二}〕問答歌

豊國トヨクニ乃聞ノキキ之長濱ノナガハマ、去晚キクラシヒ日之昏去者ノクレヌレバ、妹倉序念イモエラシゾオホナ、

豊國トヨクニ能聞ノキキ乃高濱ノタカハマ、高高ノタカカ二君待夜等者ニキミマツヨラハサ、在夜深來ヨフケニケリ、

〔筑紫道記〕やがて一葉に乗じて漕出、安徳天皇行宮の跡をあはれみ、柳が浦を過、菊の高濱をながむ、同行の勧め侍れば、舟の中にて一折有、

花ならぬ真砂もさくの濱路かな

薩摩國
吹上濱

〔地理纂考^{十三}〕吹上濱 此地加世田郷野間岬ヨリ、東北十里許ナリ、西北ノ大洋ニ對シタレバ、烈

風吹ゴトニ、白砂空ニ捲キ、海濱ニ堆積シテ山ヲナシ、又コレヲ吹散シテ、次第ニ遠ク陸地ニ入り、

林藪岡阜コレガ爲ニ埋シテ、悉ク銀山玉嶺ノ如シ、中ニモ當郷池邊、高橋、大野ノ三村海濱ニ近ケ

レバ、白砂高ク積リテ、老松僅ニ梢ヲ露ハシテ、稚松ニ似タリ、其景色清潔ニシテ、四時雪月ニ向フ